

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学では、平成 25 年度～29 年度にかけて実施した生活習慣病重症化予防のための戦略研究において対象自治体であった 43 市との協働により「受療行動促進モデル保健指導による重症化予防長期効果検証と AI による支援効果の検討」を実施しています。

【研究課題名】受療行動促進モデル保健指導による重症化予防長期効果検証と AI による支援効果の検討

【研究期間】

倫理委員会承認後から 2035 年 3 月 31 日まで

（研究対象地域との調整により、倫理審査委員会の承認のもと研究機関の長の許可後、延長することがあります）

研究情報の利用又は提供を開始する予定日：2019 年 7 月

【研究の意義・目的・方法】

受療の遅れによる循環器疾患や糖尿病合併症を減少させるため、我々は、受療行動促進モデルに基づいた保健指導プログラムを開発し、43 自治体を対象にした世界でも類のないクラスター・ランダム化比較試験によって、健診時未受療だった重症化ハイリスク者の受療率の増加、服薬治療の割合の増加と危険因子レベルの低下の効果を立証しました (J-HARP 研究)。

本研究では、この保健指導効果が介入から 5 年を経て、脳・心臓血管疾患、糖尿病合併症の発症抑制に貢献しているかどうか（レガシー効果）を明らかにします。J-HARP での介入期間（2014～2015 年度）以降のレセプトデータ、国保異動情報、死亡データを収集するためのシステムを構築し、2020 年 6 月までの間、データ収集をした後、脳卒中・虚血性心疾患、糖尿病合併症の累積発症率、新規人工透析導入の累積割合を介入自治体、対照自治体間で比較解析を行います。

【研究結果の公表】

研究結果は学会や学術雑誌で発表するとともに、研究対象地域に還元します。研究対象地域のホームページや広報等に概要が掲載されることがあります。

【研究組織】

研究代表機関および研究代表者

大阪大学（責任者・野口緑特任准教授）

共同研究機関および研究責任者

獨協医科大学（責任者・西連地利己教授）

大分大学（責任者・斉藤功教授）

金沢大学（責任者・表志津子教授）

名古屋大学（責任者・八谷寛教授）

順天堂大学（責任者・山岸良匡教授）

国立循環器病研究センター（責任者・小久保喜弘健診部特任部長）

近畿大学（責任者・今野弘規主任教授）

国立国際医療研究センターグローバルヘルス政策研究センター（責任者・磯博康センター長）

【個人情報の保護について】

本研究では、研究対象自治体より匿名化された KDB 突合データ（KDB 被保険者台帳、健診結果、医療レセプト管理・医療傷病名・医療摘要を含む）の提供を受けて研究を実施します。

個人情報の取扱いに関しましては、研究対象自治体より特定の個人が識別されない状態に匿名化されたデータとして提供を受けます。この匿名化された情報は大阪大学において厳重に管理され、本研究以外の目的に使用されることはありません。

研究を行うにあたっては、個人情報を削除し、番号などに置き換えて匿名化したデータベースを構築した上で、大阪大学、近畿大学、国立国際医療センターにおいて集計・解析を行い、集団全体の分析結果として公表し、研究対象自治体に還元します。個人の結果が公表されることはありません。また、住民の皆さまが不利益を受けたり、危険性が生じたりする可能性はありません。

【本研究に関する問い合わせ先】

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学 mkyomu@pbhel.med.osaka-u.ac.jp